

～ 資料編 ～

江戸時代 新田開発～開港

かつて関内・関外エリアは、元町付近から北西へ延びた砂州によって東京湾と区分された入海で、周辺には半農半漁の集落が点在していました。

江戸時代に入り、幕府によって新田開発が奨励されるようになると、江戸の木材・石材商であった吉田勘兵衛が、この入海の干拓事業に乗り出します。11年の歳月をかけ、1667年(寛文7年)に完成したこの新田開発によって、**大岡川**や**中村川**が形作られました。

1859年(安政6年)に横浜が開港すると、吉田新田の沖合は埋め立てられ、開港場が開かれます。開港の翌年には外国人居留地を隔てる目的で**堀川**が開削され、中村川の流れがそのまま直線的に海へと注ぐ現在の川の形が生まれました。



東海道五十三次之内 神名川宿台ヨリ十五景見渡御行列之図
富士山の手前に野毛浦、横浜村などが描かれている
(横浜市立図書館デジタルアーカイブより)

明治時代～戦前 港湾都市誕生、震災による焼失と再生

1870年(明治3年)には、横浜港と根岸湾を結ぶ舟運経路の確保と吉田新田内の沼地の埋め立てを目的として、**堀割川**の開削が始まり、難工事の末1874年(明治7年)に完成しました。

横浜港が国際物流港として発展するのにもない、関内・関外エリアで都市化が急速に進み、大岡川や中村川などは港に直結する舟運の経路として利用されるようになります。川沿いには染物、製茶、材木・紙器、焼物等の交易関連産業が集積し、80を超える階段護岸(雁木)が作られ、多くの物資が川を行き交いました。

1923年(大正12年)に関東大震災が発生すると、河川は護岸の崩落や落橋に見舞われ、壊滅的な被害を受けました。その後、護岸の復旧や橋の架け替えがなされ、昭和初期までに復興整備が達成されました。この時に架けられた震災復興橋は現存するものも多く、当時の姿を今に伝えています。



明治7年に開削された堀割川と、明治10年代に架橋された瀧之橋(現:八幡橋)

戦中～戦後 戦災と接收

太平洋戦争末期の1945年(昭和20年)5月29日、米軍による空襲により、関内・関外エリアはほぼ全域が焼失し、関東大震災から20年余りで、まちは再び灰燼に帰すこととなりました。

終戦とともに日本に進駐した連合軍は、港湾施設や横浜の中心部を広範囲に渡り接收しました。これにより、横浜の都市機能は機能不全に陥り、戦災からの復興が立ち遅れることとなります。

接收は徐々に解除されていきましたが、かつて活況を呈した河川物流が元の姿に戻ることはありませんでした。



接收中の日ノ出町周辺の風景(東ヶ丘から関内方向を見る)

高度経済成長期 成長と停滞

高度経済成長期(1955年頃～)に入ると、大岡川上流部では急激な人口流入による都市化が進み、下水道整備の遅れなどによる河川の汚染問題が表出しました。不法係留船の問題なども加わり、まちと河川(水辺)の関係は次第に希薄になっていきました。

1970年代に入りコンテナによる物流が主流になると、舢舨を使った物流は激減し、河川利用も減少していきました。一部は埋め立てられ、地下鉄や高速道路、公園へと姿を変えました。さらに、中村川・堀川では、首都高速道路の高架が設置されて川沿いの歩道が廃止されるなど、まちと河川(水辺)の距離は広がっていきました。

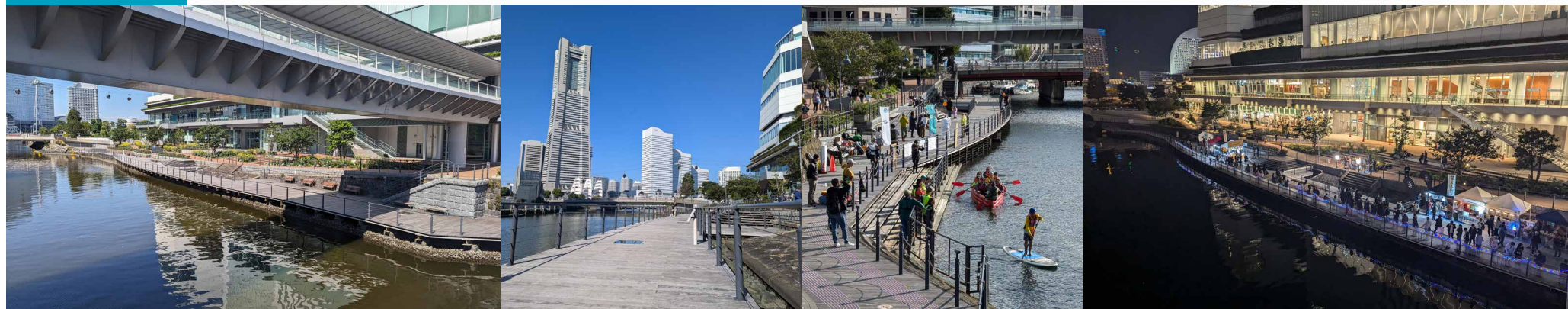
一方、戦後も大きな水害に見舞われた大岡川では、大岡川分水路が10年の歳月をかけ1981年(昭和56年)に完成し、抜本的な治水対策がなされました。



戦後の舢舨水上生活船の様子(駐留米軍のお土産用に発行された写真)。
撮影年代は昭和20年代と推定

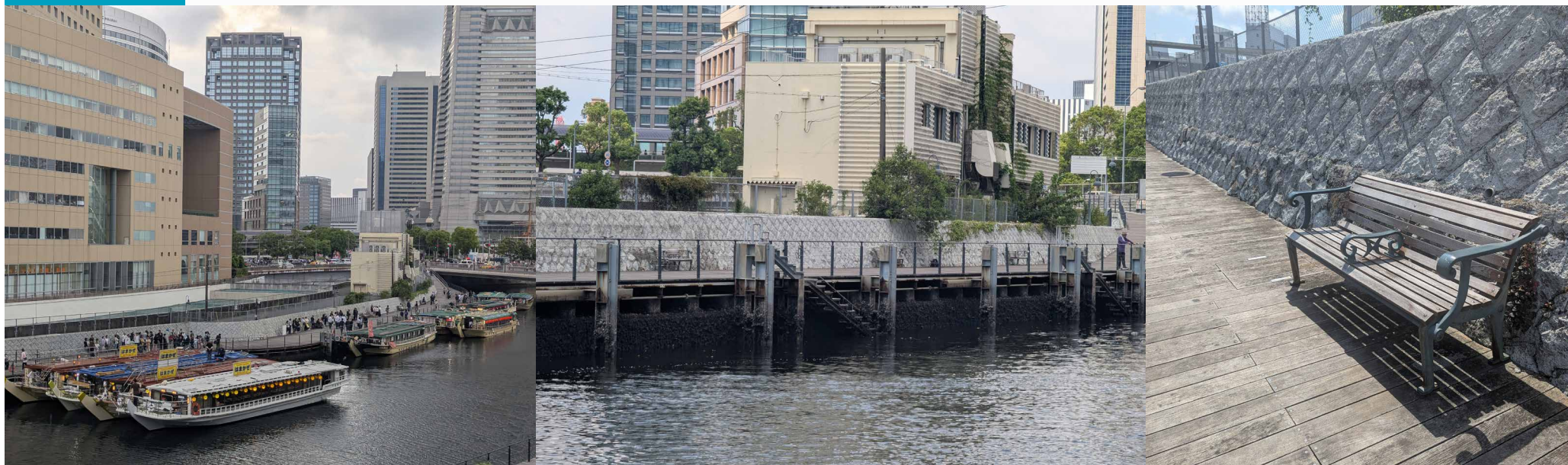
①大岡川夢ロード(右岸)

| | |
|-------|--|
| アクセス | JR桜木町駅より徒歩3分、みなとみらい線馬車道駅1C出口より徒歩1分 |
| 沿革 | 2004年 神奈川県による大岡川夢ロードの整備完了 2014年～ 大岡川夢ロードデッキサポーターズによる清掃活動開始 2020年 後背地において市庁舎および水辺テラスの整備完了 2024年 横浜市と京浜急行電鉄による水辺空間活用の社会実験「ヨコハマMIZBEフェス@大岡川夢ロード」実施 |
| 整備施設 | ボードデッキ 階段護岸 ベンチ |
| 接岸 | 動力船 × 非動力船 ○ ※現行の運用ルールに基づく接岸の可否 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ● みなとみらいの景色を望める絶好のロケーション ● ベンチが設置されており、日常的な水辺の居場所がある ● 運河の歴史を伝える明治期の土木遺構が複数ある ● 縁台やベンチ等の滞留空間や電源設備などが整備されている市庁舎の水辺テラスと一体的な空間を構成している ● 毎月、大岡川夢ロードデッキサポーターズによる清掃活動が実施されている ● 河川区域と港湾区域(水域)の重複区域に立地している |
| 活用ニーズ | <ul style="list-style-type: none"> ● 至便の立地やロケーションを活かしたイベントやオープンカフェなどによる賑わい創出 ● 市庁舎低層部や水辺テラスとの一体的な活用 |



②大岡川夢ロード(左岸)

| | |
|-------|---|
| アクセス | JR桜木町駅より徒歩2分、みなとみらい線馬車道駅1C出口より徒歩2分 |
| 沿革 | 2004年 神奈川県による大岡川夢ロードの整備完了 |
| 整備施設 | ボードデッキ 船舶接岸設備 ベンチ |
| 接岸 | 動力船 ○ 非動力船 × ※現行の運用ルールに基づく接岸の可否 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ● みなとみらいの景色や対岸の水辺テラスを望める絶好のロケーション ● ベンチが設置されており、日常的な水辺の居場所がある ● 毎月、大岡川夢ロードデッキサポーターズによる清掃活動が実施されている ● 河川区域と港湾区域(水域)の重複区域に立地している |
| 活用ニーズ | <ul style="list-style-type: none"> ● 屋形船乗船場としての活用 ● 周辺敷地の活用 |



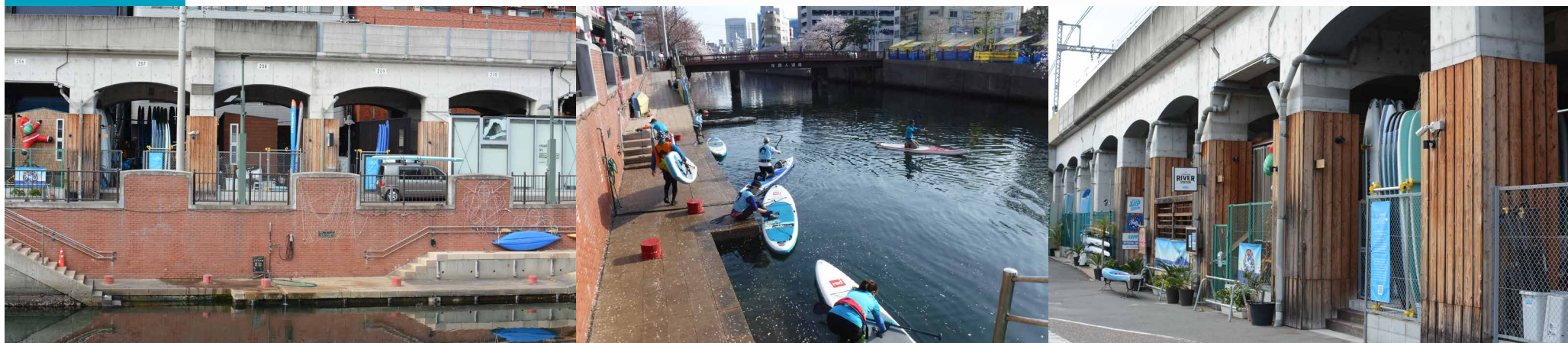
③横浜日ノ出棧橋

| | |
|-------|---|
| アクセス | 京急日ノ出町駅より徒歩2分 |
| 沿革 | <p>2014年 神奈川県による横浜日ノ出棧橋の整備および横浜市による周辺道路の整備完了 日ノ出町駅前商店会による※1「大岡川水上劇場」開始</p> <p>2015年 後背地において市街地再開発事業による商業・住宅・福祉施設の複合ビル「日ノ出サクアス」オープン 大岡川川の駅運営委員会による日常管理および利用調整開始</p> <p>2020年 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会による地域連携防災訓練（河川を利用した水上物資輸送訓練等）開始</p> |
| 整備施設 | 浮棧橋 広場スペース（バリアフリー） ベンチ |
| 接岸 | 動力船 ○ 非動力船 × ※現行の運用ルールに基づく接岸の可否 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ● 後背地の「日ノ出町駅前市街地再開発事業」と連携した整備 ● 大岡川川の駅運営委員会による日常管理と利用調整 ● 後背地の道路と一体的なイベント活用 |
| 活用ニーズ | <ul style="list-style-type: none"> ● 水上交通の拠点化 ● 日ノ出町や野毛と連携した活用 ● 黄金町のエリアマネジメント活動と連携した活用 ● 緊急時の物資輸送や炊き出しの拠点としての活用 <p>※1 その後、野毛地区振興事業組合及び野毛地区街づくり会（日ノ出町駅前活性化推進委員会）が加わりました</p> |



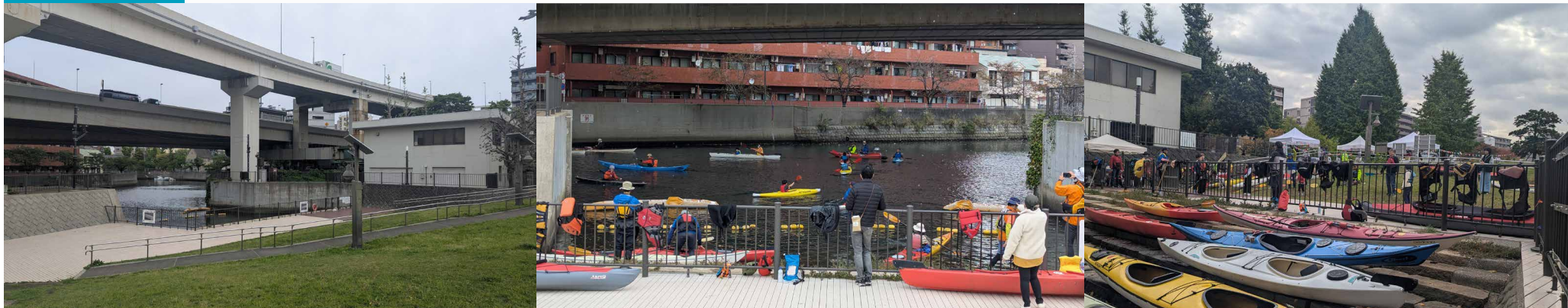
④大岡川桜棧橋

| | | |
|-------|--|--------------------|
| アクセス | 京急日ノ出町駅より徒歩4分 京急黄金町駅より徒歩7分 | |
| 沿革 | 2007年 神奈川県による大岡川桜棧橋の整備完了 大岡川川の駅運営委員会による日常管理および利用調整開始 2008年 後背地において京浜急行電鉄による日ノ出スタジオオープン 2012年 後背地において水辺荘の活動拠点オープン 2013年 後背地において横浜SUP倶楽部の活動拠点オープン | |
| 整備施設 | 固定棧橋 | |
| 接岸 | 動力船 × 非動力船 ○ | ※現行の運用ルールに基づく接岸の可否 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ● 大岡川川の駅運営委員会による日常管理と利用調整 ● 日常的に水上アクティビティの拠点として利用されている ● 道路と一体でイベント活用 ● 野毛山を水源とする湧水あり | |
| 活用ニーズ | <ul style="list-style-type: none"> ● 水上アクティビティの拠点としての活用 ● 黄金町のエリアマネジメント活動と連携した活用 | |



⑤ ふれあいアクアパーク

| | | |
|-------|--|--------------------|
| アクセス | 京急南太田駅より徒歩5分 市営地下鉄吉野町駅より徒歩7分 | |
| 沿革 | 2009年 神奈川県によるふれあいアクアパーク整備完了 大岡川アートプロジェクト実行委員会による「大岡川光のぶろむなあと」開始 2023年 大岡川川の駅運営委員会による利用調整開始 2024年 よこはま運河チャレンジにて仮設栈橋設置の実証実験を実施 2025年 横浜市とまいたエコサロンの会による水辺活用の実証実験「まいた公園水辺日和」を実施 よこはま運河チャレンジにて仮設栈橋設置の実証実験を実施 | |
| 整備施設 | 階段護岸 広場スペース(バリアフリー) | |
| 接岸 | 動力船 × 非動力船 ○ | ※現行の運用ルールに基づく接岸の可否 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ● 芝生広場や大型遊具を有する蒔田公園と一体となった水辺空間 ● 環境活動拠点の建物(横浜市みどり環境局所管)が隣接 ● 河川区域と公園区域の重複区域 | |
| 活用ニーズ | <ul style="list-style-type: none"> ● 蒔田公園との一体的な活用 ● 地域活動団体や環境活動団体と連携した活用 ● 動力船栈橋の整備 | |



⑥堀割川いそご棧橋

| | |
|-------|--|
| アクセス | JR根岸駅より徒歩14分 |
| 沿革 | 2022年 神奈川県による堀割川いそご棧橋の整備完了 大岡川川の駅運営委員会による利用調整開始 2024年 磯子区による堀割川の魅力づくりイベント開始 |
| 整備施設 | 浮棧橋 階段護岸 広場スペース(バリアフリー) |
| 接岸 | 動力船 ○ 非動力船 ○ ※現行の運用ルールに基づく接岸の可否 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ● 堀割川の水面に近づける唯一のポイント ● 後背地にポケットパークあり ● 一部が河川区域と港湾区域(水域)の重複区域に立地している |
| 活用ニーズ | <ul style="list-style-type: none"> ● 船舶・SUP・カヌー等の河川利用のレクリエーション拠点 ● 水上交通による大岡川、中村川との回遊性向上 ● 緊急時の物資輸送拠点としての活用 |



⑦石川町フェリーチェ棧橋

| | |
|-------|---|
| アクセス | JR石川町駅より徒歩1分 |
| 沿革 | 2012年 地元商店街組織による活用検討開始 2019年 } 年1回開催のよこはま運河チャレンジにて 2021年 } 仮設棧橋設置の実証実験を実施 2026年 神奈川県による石川町フェリーチェ棧橋の整備完了 横浜市による周辺道路の整備完了予定 |
| 整備施設 | 浮棧橋(バリアフリー) 広場スペース(バリアフリー) |
| 接岸 | 動力船 ○ 非動力船 ○ ※想定している運用ルール |
| 特徴 | ● JR石川町駅から徒歩1分の至便の立地 |
| 活用ニーズ | ● 水上交通の拠点化 ● 石川町と連携した活用(イベント実施等) ● 地元のコミュニティカフェとの連携 ● 緊急時の物資輸送拠点としての活用 |



⑧元町・中華街棧橋(仮称・整備中)

| | |
|-------|--|
| アクセス | みなとみらい線元町・中華街駅より徒歩1分 |
| 沿革 | 2022年 } 年1回開催のよこはま運河チャレンジにて 2025年 } 仮設棧橋設置の実証実験を実施 2024年 地元まちづくり組織による活用検討開始 2026年 神奈川県による整備着工 |
| 整備施設 | 浮棧橋(バリアフリー) |
| 接岸 | 動力船 ○ 非動力船 ○ ※想定している運用ルール |
| 特徴 | ● 元町・中華街駅から徒歩1分の至便の立地 ● 河川区域と港湾区域(水域)の重複区域に立地予定 |
| 活用ニーズ | ● 水上交通の拠点化 ● 緊急時の物資輸送拠点としての活用 |



完成予想パース

よこはま水辺ビジョン～大岡川水系下流域～（素案）

令和8年6月

横浜市都市整備局関内関外事業推進課

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

TEL：045-671-4247 FAX：045-664-3551